

こいまり 古伊万里いきもの図会展

Birds, Beasts & Beyond: Living Beings in Old Imari

展示室がまるごと図鑑に！？ 古伊万里のいきものモチーフ大集合！



展覧会情報

- ◇ 名称：古伊万里いきもの図会展
- ◇ 会期：2026年1月8日(木)～3月22日(日)
- ◇ 開館時間：10:00～17:00 (入館受付は16:30まで)
 ※金曜・土曜は10:00～20:00 (入館受付は19:30まで)
- ◇ 休館日：月曜・火曜
 ※1月12日(月・祝)、2月23日(月・祝)は開館。
- ◇ 入館料：一般1,200円 / 高大生500円 ※中学生以下は入館料無料。
 1月8日(木)～1月31日(土)は新成人は入館料無料。
 受付にて年齢のわかるものをご提示ください。
- ◇ 会場：戸栗美術館(東京都渋谷区松濤1-11-3)
- ◇ 交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分・地下鉄A2出口より徒歩12分
 京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分
 当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

展覧会詳細と主な出展作品

※ 画像①～⑥および展覧会ポスターの画像データ等をご用意しております。ご入用の際は、お手数ですが別紙写真借用申請書をお送りください。

◆ 展覧会詳細

古伊万里にあらわされた30種類以上のいきものモチーフをご紹介。

動物、植物、幾何学、人間など、文様や造形のモチーフの多彩さは、伊万里焼の魅力のひとつと言えるでしょう。中でもいきもののモチーフは、吉祥意を内包している幻獣であったり、身近な鳥であったり、最新の舶来種であったりと実在・非実在問わず多種多様に表現されています。

今展では江戸時代の絵入り百科事典『和漢三才図会』の項目分類を参考し、展示室内を図鑑に見立てながら、ひとつひとつのモチーフをご紹介いたします。『和漢三才図会』は大坂の医師であった寺島良安が、日本にもたらされた漢籍や国内で刊行した百科事典などを参考に編纂したものです。本書に掲載のいきものと伊万里焼にあらわされたモチーフを照合することで、博物学の視点も踏まえて、江戸時代当時のいきものに対する認識も紐解きます。

◆ 主な出展作品

◇ 魚

中国では古来子孫繁栄や富の象徴として親しまれている魚。伊万里焼では魚形の皿の他、めでたさの象徴である鯛や、立身出世のモチーフとしてお馴染みの鯉、鮎などがあらわされた作品が散見されます。



◀画像① 染付 魚形皿

伊万里 江戸時代（17世紀中期） 口径 16.6×13.2cm

◇ 龍・虎

威厳のある姿が特徴的な龍と虎は絵画や工芸品でしばしば組み合わせられるモチーフ。伊万里焼でも、それぞれ単体で描かれるほか、対峙する様子が見られます。



龍部分拡大



虎部分拡大

◀画像② 染付 龍虎文 水指

伊万里 江戸時代（17世紀後半） 通高 18.5cm

◇蝶

江戸時代の小袖や歌舞伎衣装などに見られる蝶は、伊万里焼でも文様や器形などにあらわされます。



◀画像③ 染付蝶形皿

伊万里 江戸時代（17世紀後半）口径 11.5×7.0cm

◇獅子

中国・漢時代に西域諸国より貢物として伝來したライオンを元に創造された瑞獸。百獸の王であるライオンの持つ権力と猛威といった力強いイメージから辟邪の象徴とされました。牡丹と組み合わせた文様や、置物など様々に表現されます。



◀画像④ 色絵獅子置物

伊万里（柿右衛門様式）江戸時代（17世紀後半）
(左)高 14.8cm (右)高 15.2cm

◇鳳凰

鳳凰は古代中国を起源とする靈鳥で、天下泰平の瑞祥とされました。頭は鶏、尾羽は孔雀など様々な鳥が組み合わさった華やかな姿で描かれます。



◀画像⑤ 色絵鳳凰文鉢

伊万里 江戸時代（17世紀末～18世紀初）口径 19.7cm

◇水禽

鶯や雁、鴨といった水辺にいる鳥を水禽と総称します。文様のほか、鳥の形をした皿や合子などもあります。多くは葦や水葵、蓮といった水辺の植物とともに描かれます。



◀画像⑥ 染付鳥形合子

伊万里 江戸時代（17世紀後半）通高 5.4cm

展覧会紹介文

- ◇ 伊万里焼にあらわされたいきものに注目し、館蔵品約80点を図鑑形式にて紹介。(37字)
- ◇ 館蔵の伊万里焼から、いきものを主題とした作品約80点を図鑑仕立てで紹介する。動物、鳥、龍、魚、虫といった30種類以上のモチーフを意味や逸話、伊万里焼における表現など様々な視点から紐解く。(96字)
- ◇ 館蔵の伊万里焼から、いきものを主題とした作品約80点を図鑑仕立てで紹介する。文様や造形のモチーフの多彩さは、伊万里焼の魅力のひとつと言える。特にいきものは実在・非実在含め、多種多様に表現されており、吉祥意を内包していたり、身近ないきものであったり、最新の舶来種であったりと、江戸時代当時のいきものに対する認識を垣間見ることができる。今展では30種類以上のモチーフを意味や逸話、伊万里焼における表現など様々な視点から紐解く。(211字)

会期中の催し物

- ◇ 展示解説
 - 1月17日(土)・3月14日(土) 各日14:00～(約45分)
 - 参加費無料(要入館券) □予約不要
- ◇ ラウンジ&ギャラリー・トーク
 - 「江戸時代の博物誌と古伊万里の文様」(講師:当館学芸員)
 - 3月2日(月) 14:00～(約120分／要予約・有料)
※当日はご予約の方のみご入館いただけます。
※詳細は当館ホームページをご覧ください。
- ◇ 観て・触れて・味わって 古伊万里尽くしの鑑賞と料理
 - 1月26日・27日(月・火) 各日各回10:15／11:00開始
 - 参加費 20,000円(税・サービス料込み) □要事前予約 □各日各回先着6名様
※詳細は当館ホームページをご覧ください。

同時開催

- ◇ 『江戸時代の伊万里焼—誕生からの変遷—』(第3展示室)

次回展予告

伊万里・鍋島に映った四季—和の意匠—展



色絵 柴垣桜花波濤文 皿
鍋島 江戸時代(17世紀末～18世紀初)
口径 19.7cm

2026年4月3日(金)～6月21日(日)

お問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館 広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-11-3

TEL: 03-3465-0070 FAX: 03-3467-9813 E-mail: kouhou@toguri-museum.or.jp

公式サイト: <https://www.toguri-museum.or.jp/>